



上下写真は2010(H22)年のものです。



退職にあたって

退職される先生からのメッセージ
令和4年3月をもって退職される 佐々木安廣先生、
高橋秀憲先生からメッセージをいただきました。

感謝の50年間

教授 佐々木 安廣

歳月の経つのは早いもので、50年の教育研究活動から離れることに今更ながら驚いております。いつも私の無理な願いや行動に皆さんが協力し支えて頂きましたことに心から御礼申し上げます。

教育職に就きたいと思っていたところに誘いを頂いて、奥州大学(現 富士大学)に教員と柔道部監督として奉職することになりました。最初に仰せつかった仕事は、体育実技の「スキー実習の実施企画」で、宿舎は安価なユースホステル、八幡平へ3泊4日の日程でした。緊張して出発しましたが、最終日の前夜に指導者と学生100名ぐらいで交流会をし、歌有り、踊り有り、コント有りで笑い転げたことが鮮明に記憶に残っています。

スキー実習で忘れられない経験が他にもあります。実習最終日が猛吹雪でバスが来られず、緊急に現地のスキー場関係者とも相談し、道路に沿って徒歩で列を組んで下山することになりました。2人一組で手を繋ぎ、吹雪の中を一步一步下山し、スノーシェルターで休むなどして4時間掛かって麓まで辿り着いた時、互いに抱き合い自然に出た「バンザイ」は忘れられません。

また、学生・教職員相互の交流を図り実施していたスポーツフェスティバル。学生部と学友会が企画し、教職員と学生が一堂に会して実施したイベントで、ゼミ対抗ボールゲームや短距離走、対抗リレーなど多種目の競技メニューを設定しました。

学生たちが一つの目的に向かって力を合わせると、想像を超える結果を導き出すことがあります。各運動部もそうではないでしょうか。学生時代のそういった経験が自信となって、活躍している卒業生も多いと思います。卒業生の頑張りは、在学生にとって大きな目標になるので、卒業生は自分の持っている力を十分に発揮して頑張ってくださいと思います。

私は、人生の大半の50年を過ごしたこの富士大学で、教育研究活動の機会と自分を磨くための柔道の活動環境を与えて頂きました。講道館柔道八段に昇段でき、2019世界ベテランズ柔道大会(モロッコ)では金メダルを頂くことができました。また、柔道部の40数回に及ぶ全日本学生大会出場を始め、柔道交流で実施した韓国、フランス、オーストラリア遠征など思い出は尽きません。富士大学での生活は私の人生そのものでした。心から感謝と御礼を申し上げます。



巡り合いの中で

教授 高橋 秀憲

この春にはOBの一員として側面支援に回ります。顧みれば、34年間もお世話になっておりました。昭和63年(1988)に奉職し、平成の30年間と令和の3年です。特に印象に残っているのは、平成元年(1989)の「冷戦の終結」、平成7年(1995)の阪神淡路の大震災・地下鉄サリン事件、平成13年(2001)の米中核部への同時多発テロ、平成20年(2008)のリーマンショックと政権交代、平成23年(2011)の東日本大震災・福島第一原発のメルトダウン、そして令和4年(2022)の今も渦中にある新型コロナウイルスのパンデミックでしょうか。

転換期の大波に翻弄されて悲喜こもごもいろいろなことはありましたが、「空白の30年」とも言われるこの間も、4月に新入生を迎え、3月に卒業生の社会人スタートを見届けることに変わりなく、共に学び共に育つの年月でした。みなさんの大活躍に国際大会のメダルも実見させて頂き、大学野球日本一にあわやの王手をかけた一戦の応援にも加えさせて頂きました。社会人となり夫婦となり、あるいは親となったOB・OGたちに、再会・歓談の場も設けてもらったことは、いわゆる教師冥利につきますことではあります。夫婦で、子どもを連れて、母校に来てくれたなどは、望外の喜びでした。

「思索と行動は人生の双つの翼だ」をモットーに、国内はもとより国外にも活躍の場を広げられている、建学以来のOB・OGの気遣いとサポートに触れえたことも忘れられません。地元・地域の理解と協力を得て「開学50周年」も祝うことができました。コロナ・クラスター発生時には、有志から支援物資も寄せられました。

よき先輩・同僚・後輩にも巡り合えることができ、様々にご教示ご指導を得ましたこと、感謝の一言です。この学び舎に縁があって集う皆みな様のご健勝とご活躍をお祈りし、このような出会いの場と知見を広げる機会を用意してくれた富士大学の益々のご発展を祈念申し上げます。

人生100年の時代。お互い様ですが、学びの輪を大学と賢治の花巻から更に実家・地域に職場に世界にキャンパスを広げ、それぞれのピフォーアフターを肴に、再会・歓談のできる日を楽しみに、学びを深めていきたいです。少しは暇もできましたら、ポトマック河畔のジェファソン記念堂前に学生たちと海外事情研修で植樹した富士大学のさくら2本が、今どんなになっているのか、観に行けたらと思っています。また会いましょう。ありがとうございました。



校友会寄附納入者芳名（敬称略・県別苗字五十音順）

2021年7月15日～2022年1月20日 受付分

◆北海道◆

小林 斉 子
鈴木 之 彦

◆青森県◆

石 田 隆 芳
佐 藤 博 義

◆岩手県◆

穴久保 毅 雄
阿 部 広 巳
石 川 真 晃
伊 藤 泰 晃
今 井 優 子
上 村 豊 子
遠 藤 幸 助
遠 藤 博 美

加 藤 正 規
佐々木 公 輝
佐 藤 努 子
佐 藤 美恵子
佐 藤 ミツギ
穴 戸 昌 子
司 東 道 雄
高 橋 大 作
高 橋 忠 実
高 橋 徳 実
田 中 淳 一
照 井 英 人
根 田 孝 広
根 守 文 雄
平 山 清 志
米 田 和 靖
三 浦 脩 太

室 野 重 則
盛 合 徳 朗
吉 田 豪 子

◆宮城県◆

和 泉 一 之
倉 根 克 弘
金 千 彰
佐久間 弘 幸
佐 藤 裕 二
下 山 和 則
高 橋 紳 子
山 口 崇 子

◆秋田県◆

金 史 子

◆山形県◆

鈴 木 一 弘

◆福島県◆

坂 下 和 義
三 條 勇 治

◆茨城県◆

伊 藤 真一郎
柴 田 康 仁
成 瀬 智 信

◆埼玉県◆

鈴 木 忠 敬
茂手木 隆 弘

◆千葉県◆

浅 井 和 宏
田 島 諭 子
山 本 茂 子

◆栃木県◆

小 林 正 幸

◆東京都◆

宇夫方 兼 治
佐々木 寛 子
滝 沢 勝 子
平 井 卓 子
平 光 兼 智
皆 己 昇 三

◆神奈川県◆

佐々木 義 文
佐 藤 泰 人
豊 田 圭 史

◆高知県◆

戸 梶 孝 則



皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

同窓生のみなさんへ

昭和55年卒(11回生) 福島支部長 三條 勇治

私は昭和55年に卒業しましたが、なぜか入学はその5年前でした。大学生活は居心地が良かったのか1年多いです。

早いもので今年で65歳となりました。会社を早期退職し、郡山の自宅で「酒・肴さんじょう」を営んでおります。世の中はコロナ禍。私のところにも、コロナワクチン接種の案内が届き、少しの安堵と、該当する年齢である事の寂しさを感じています。

大学時代を思い出しますと、ただ、ただ恥ずかしい事の繰り返しでした。しかし楽しかった日々だったなあ～と懐かしく思い返します。ゼミの仲間、同級生、後輩の方々と文字通り青春時代を過ごしました。歌にもありますが「後からほのぼの思うもの」を痛感しています。

2年前、仙台で開催された校友会の集まりに出席し、校友会会長、大学事務局、先輩、後輩の方々と時を忘れて遅くまで



飲み明かした際に、これから福島県校友会のまとめ役として積極的に活動して行きたいと思いました。

今後も、大学を支援し、学生の応援団として、また、福島県の校友会の支部長として頑張りますので皆さん宜しくお願い致します。

校友会会員の皆様へ

現在、現住所不明の会員が約2,000人にのぼります。校友会では、災害時のみならず、校友のネットワーク作りの一環としてお知り合いの校友で住所変更の連絡をしていない方がおられましたら、下記までご連絡ください。

また、卒業生の活動情報やクラブ・サークルOB/OG会開催、卒業生の活動に関する情報がございましたら下記までお知らせください。

2020年からの新型コロナウイルス感染の沈静化とは、残念ながらなりません。現在もご不便な状況にある校友もおられると存じますが、一日も早い平穏な日常に戻ることを祈念いたします。

2022年度の校友会活動もご案内できる状況となりましたら校友会だより等でお知らせしたいと存じます。会員の皆様におかれましては、どうぞご自愛くださいますようお願いいたします。